

ユニセフ T・NET 通信

2011 SPRING

No.48

公益財団法人 日本ユニセフ協会 学校事業部

〒108-8607 東京都港区高輪 4-6-12 ユニセフハウス TEL:03-5789-2014 FAX:03-5789-2034

Email: se-jcu@unicef.or.jp ホームページ <http://www.unicef.or.jp>

募金口座▶郵便振替: 00190-5-31000 (公財)日本ユニセフ協会 (送金手数料免除 ※窓口振込のみ)

このたびの東日本大震災によって被害にあわれたすべての皆様に心よりお見舞い申し上げますとともに、被災地の一日も早い復興をお祈り申し上げます。

地球の人口問題を考える

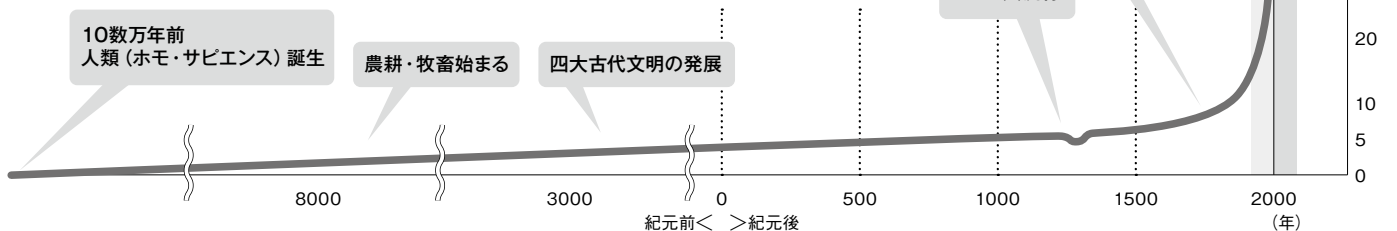
今世紀は人類を悩ませる問題が山積の世紀だといわれます。人口、温暖化に伴う気候変動、資源の枯渇、経済格差など枚挙に暇がありません。こうした問題の中でも、開発途上国と先進国とは大きな違いがある人口は大いに注意を要する問題です。日本では少子化が進み、学校の統廃合や地方の過疎化など人口減が叫ばれていますが、世界ではどのような状況なのでしょうか。



©UNICEF/NYHQ2004-0370/Nesbitt

人口爆発の脅威

国際連合の発表では、地球の人口は【グラフ1】にあるように第2次世界大戦後の1950年には約25億人でしたが、1999年には60億人、2010年には69億人になり、2050年には91億人に膨れ上がると予測されています。この人口のうち、8割がアジア・アフリカの開発途上国に集中し、食糧不足になる可能性があります。さらに、食糧増産のため、森林を伐採し、耕地を拡大することにより、環境が破壊される可能性もあります。森林の減少で地球の温暖化に拍車がかかり、海面の上昇による大きな影響も予測されます。また、貧富の差が拡大し、社会不安の拡大も懸念されます。2050年に地球が支えられる人口は80億人ほどであるといわれています。残りの11億人の人々はどこで暮らし、何を食べ、どのようにに生活すればよいのでしょうか。人類はこの人口爆発の問題をどう解決していけばよいのでしょうか。



【グラフ1】世界人口の推移(推計値)

出典: 国連人口基金東京事務所ウェブサイト掲載図より作成

【図表1】は、2010年の世界で人口の多い国上位10ヶ国を示しています。40年後の2050年には【図表2】のようになると予測されています。日本は少子化がこのまま続くと、現在の1億2,600万人から1億人を下回る国になると考えられています。

人口の問題は今後の地球のあり方を考えると、先進国にとっても途上国にとっても、非常に重要な問題です。

現在の主な国の合計特殊出生率を見てみると、【図表3】のような状況です。

【図表1】
2010年人口の多い国上位10ヶ国

順位	国名	人口
1	中国	1,330,141,295
2	インド	1,173,108,018
3	アメリカ合衆国	310,232,863
4	インドネシア	242,968,342
5	ブラジル	201,103,330
6	パキスタン	184,404,791
7	バングラデシュ	156,118,464
8	ナイジェリア	152,217,341
9	ロシア	139,390,205
10	日本	126,804,433

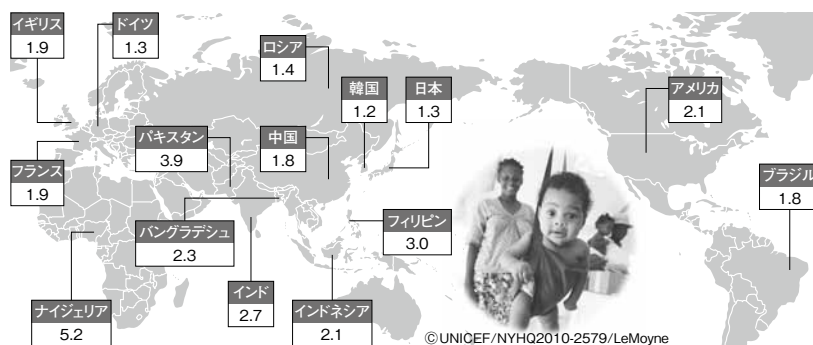
出典：【図表1・2】ともにU.S. Census Bureau
ウェブサイト掲載図より翻訳、作成

【図表2】
2050年人口の多い国上位10ヶ国

順位	国名	人口
1	インド	1,656,553,632
2	中国	1,303,723,332
3	アメリカ合衆国	439,010,253
4	インドネシア	313,020,847
5	パキスタン	290,847,790
6	エチオピア	278,283,137
7	ナイジェリア	264,262,405
8	ブラジル	260,692,493
9	バングラデシュ	250,155,274
10	フィリピン	171,964,187
...		
20	日本	93,673,826

【図表3】 主な国の合計特殊出生率(2009年)

出典：「世界子供白書2011(英語版)」



— 合計特殊出生率とは？ —

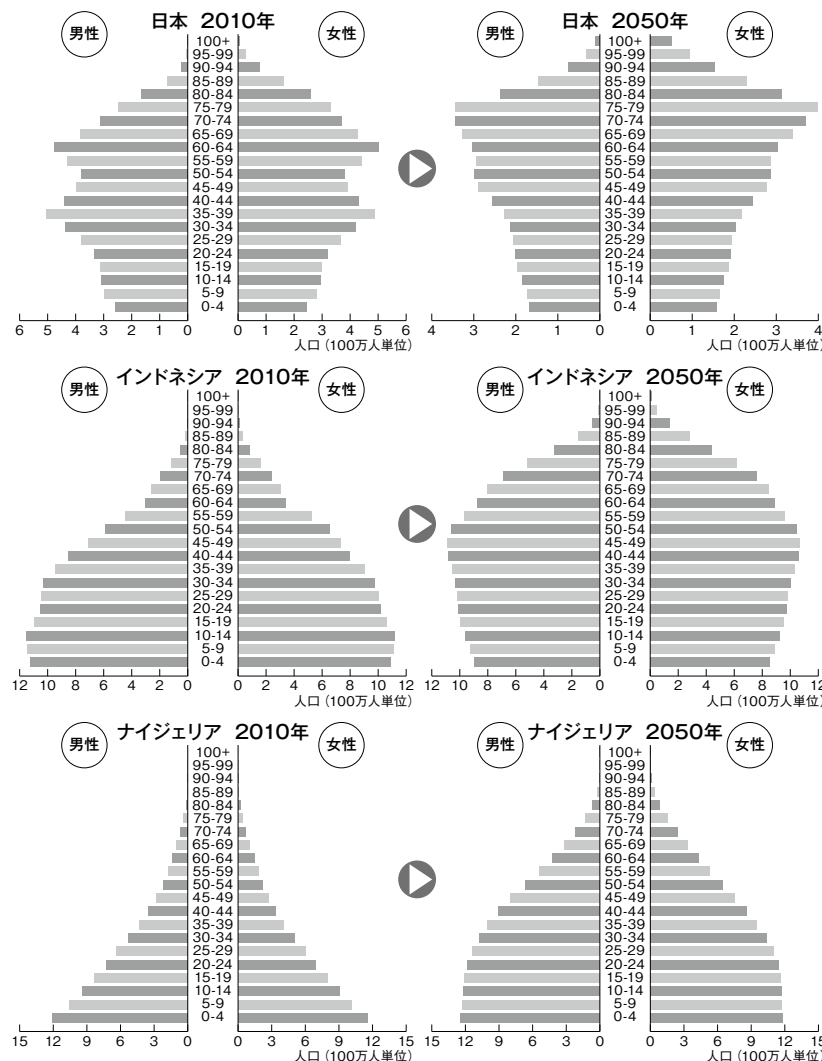
15歳から49歳までの女性の年齢別出生率を合計した数値で、一人の女性が生涯に産む子どもの数の平均を表します。出生率が2であれば人口は横ばいを示し、これを上回れば自然増、下回れば自然減となると言われます。現代先進国においては自然増と自然減との境目は2.08程度とされています。

人口ピラミッドで見る
人口の分布の推移

【図表1・2】から先進国の日本、中進国のインドネシア、開発途上国のナイジェリアの人口ピラミッドを見てみましょう。日本では将来、労働人口が少なくなり、高齢者の人口が増えてくるのがわかります。三角形をしたナイジェリアの2010年の人口では65歳以上の人口が1.7%しかおらず、労働人口が負担する状況もそれほど多くありません。しかし、2050年になると65歳以上の人口は6%を超え、現在の先進国のような状態に移行していくことが予想されます。

人口問題を考える時は、農業生産や環境の問題など他のすべての領域との関連も考慮しなければなりません。そうすることで、人口問題のみではなく、人類の置かれている状況をより細かく理解できるようになるのです。

21世紀の人口爆発の主要な場となる開発途上国は経済発展を遂げていくことでしょう。経済活動が本格化すると、地球環境の悪化を顧みず、人類を破滅へ向かわせてしまうかもしれません。しかし、この展開は決定されたことではありません。人類の行動様式を改めることにより、変革することはできるのです。人口の問題は、今すぐに人類全体で取り組まないと手遅れになる大きな問題なのです。



【グラフ2】 3ヶ国の人口ピラミッド 出典：U.S. Census Bureau ウェブサイト掲載図より翻訳、作成